



私たち人間が原因?! 外来種問題ってなに?

**もともといなかった生きものが
大問題を起こしている?!**

もともとはいなかった国や地域に、人間によって持ち込まれた生きものを「外来種」や「外来生物」といいます。

いま、外来種が生態系のバランスをくずすなどして、大きな問題となっています。

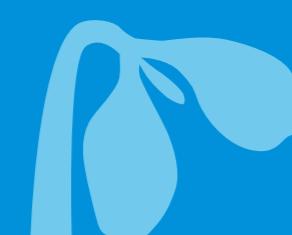
でも、こうした生きものたちを連れてきたのは人間です。ペットや観賞用。食用のため。貨物といっしょに知らないうちに連れてきてしまったものも…。もともといた地域ではごくふつうに生活していたのに、人によって持ち込まれ“問題のある生きもの”になってしまった外来種。彼らに目を向けて、できることを考えみませんか？

外来種は どんな影響をあたえるの？

世界各地で、外来種がさまざまな問題を引き起こしています。日本でも外来種の問題はとても深刻です。それではどのような問題が起きているのでしょうか？

生態系への影響

在来種(もともとその地域にいる生きもの)が追いやられるなど自然のバランスがくずれてしまうことがあります。



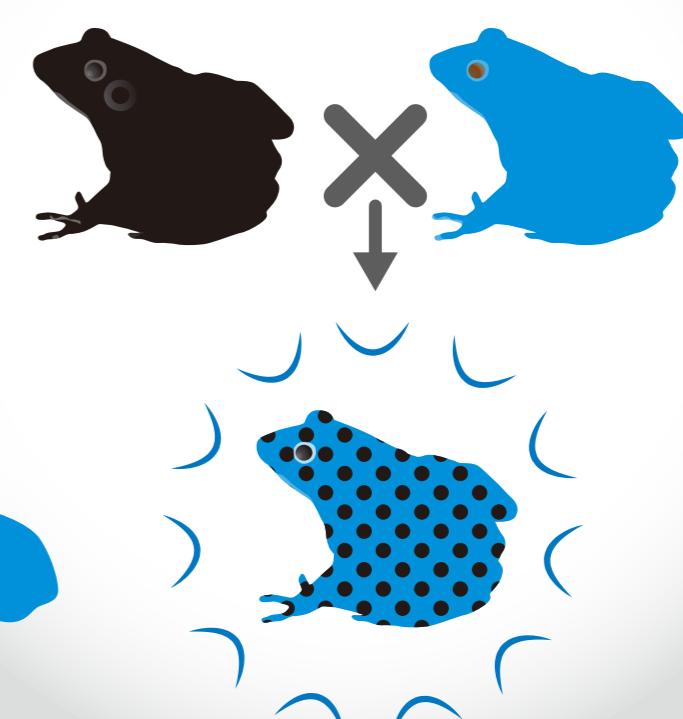
【捕食】在来種をたべる



【競合】在来種の生息・生育環境を奪ってしまったり、餌の奪い合いをする



【遺伝的攪乱】近縁の在来種と交雑して雑種をつくる



農林水産業への影響

野菜や果物、漁業の対象となる生きもの(魚など)を食べたりして、私たちの生活に影響をあたえることがあります。



農林水産物を食べる

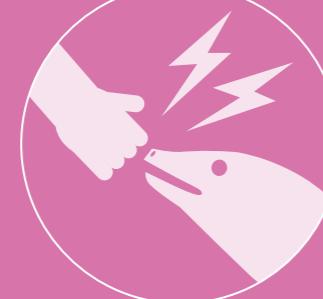


畑を踏み荒らす



人の健康への影響

毒を持っていたり、かまれたりすることにより、私たちの健康に危険がおよぶことがあります。



毒を持っていて危険



人をかんだり、刺したりする



コラム1

イネだって外来種?! 身近に利用されている外来種もある！

外来種による問題は、近代以降、国や地域をこえた人や物の動きが活発になることに伴い、深刻化しました。

現在、日本には海外から持ち込まれたものだけで2,000種以上の外来種がいるとされています。

ところで、実は私たちの主食であるお米、つまりイネももとをただせば縄文時代に日本に持ち込まれた外来種なのです。私たちの生活を見渡すと、野菜(トマト、トウモロコシなど)、家畜(牛や豚など)など、利用されている外来種はたくさんあります。私たちの社会の発展に大きく貢献したり、文化に浸透している外来種も多いのです。

外来種はどこでどんな問題を おこしているの？

日本は、国土は狭いのですが、その中にある環境はとても多様です。しかしいま、それぞの環境において、外来種による問題がおきています。特に日本のような長い年月をかけて独自の生態系がかたちづくられてきた島国では、外来種の影響を受けやすいのです。

多様な環境での外来種問題の例



コラム2

海外で問題をおこしている日本の生きもの

日本で外来種が問題となっているように、逆に日本から世界各地に導入されることで問題をおこしている生きものもいます。例えばクズは海外において、非常に高額な経済的損失を与えてい

世界各地で
繁茂している
クズ



© JWRC

アメリカで深刻な
農業害虫となった
マメコガネ



提供:伊丹市昆虫館(長島 聖大)

どんな対策があるの？

外来種による問題を防ぐためには、不注意で持ち込まれたり、野外に出てしまったりしないように予防すること、そして、野外に出てしまい生態系などに悪い影響を与えているものを防除（分布の拡大を防いだり、駆除したりすること）することが必要です。こうした対策を行うために、外来生物法という法律があります。

外来生物法で規制される事項



※これらの規制に違反をすると、最高で懲役3年、罰金300万円(個人)又は1億円(法人)が科される場合があります。

防除の取り組み

各地で様々な主体による防除がすすめられています。

例) マングースの防除

奄美大島と沖縄のやんばる地域では、マングースの防除が行われています。奄美大島には1979年ごろに持ち込まれた30頭が、2000年にはおよそ10,000頭まで増え、小型の哺乳類を食べるなどにより、アマミノクロウサギなどのその島にしかいない生きものの数が激減しました。2000年から環境省や関係する自治体などによる本格的な防除が始り、2024年9月には奄美大島におけるマングースの根絶を達成しました。マングースの防除によりアマミノクロウサギなどの分布が回復してきていることが確認されています。



コラム3

外来生物法

(特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律)

この法律では、海外から日本に持ち込まれた外来種のうち特に被害の大きいものを「特定外来生物」に指定し上記の事項を規制しています。また、既に野外に定着している特定外来生物については必要に応じて防除をすることとして、対策を推進しています。外来種による生態系、農林水産業、人の生命・身体への被害を防止するために制定され、平成17年から施行されています。

とく てい がい らい せい ぶつ

どうして特定外来生物になってしまったの？

日本には海外から持ち込まれたものだけでも、2,000種類以上の外来種がいると言われていますが、そのうち100種類を超える生きものが特定外来生物に指定されています。どうして特定外来生物になってしまったのでしょうか？いくつかの例をご紹介します。もしかしたらあなたの身近にもいる生きものかもしれません。

アカゲザル



原産地 中国～西アジア
日本に持ち込まれたわけ
実験や展示の目的で飼育されている。
飼育個体が逃げ出して定着した。

日本での分布 千葉県房総半島で分布拡大中
影響 在来種ニホンザルとの交雑が発生している。



ヌートリア



原産地 南アメリカ
日本に持ち込まれたわけ
第二次世界大戦中、毛皮のために飼育されていたものが放されたり、逃げ出したりした。

日本での分布 近畿、中国、四国地方。東海、関東、九州にも点在
影響 稲など農作物の食害。水生植物を食べ、そこをすみかにする昆虫や、同じような餌を食べる動物に影響を及ぼす。



フリミングース



原産地 南西アジア
日本に持ち込まれたわけ
沖縄本島や奄美大島でネズミやハバの駆除の目的で放された。

日本での分布 沖縄本島、奄美大島
影響 総絶滅危惧種を含む在来種を捕食し、大きな影響を及ぼす。養鶏や農作物への被害もある。



アライグマ



原産地 北アメリカ
日本に持ち込まれたわけ
ペットとして輸入。捨てられたり、逃げたものが定着した。

日本での分布 全国各地で分布拡大中
影響 少種を含む在来種の捕食。スイカやトウモロコシなど農作物の食害。お寺などの歴史的建造物に爪痕をつけたり、天井に穴を開けたりもする。



クリハラリス (タイワニス)



原産地 アジア全域(中国からマレー半島)
※タイワニスは台湾固有種
日本に持ち込まれたわけ

動物園などで飼育されていた個体が逃げ出したり、放たれたりした。

日本での分布 東京都伊豆大島、神奈川県、長崎県壱岐、熊本県、大分県など。
影響 樹皮を剥いだり、果樹や電線をかじったりする。ニホンニスと餌やすみかをめぐって競合するおそれ。



カミツキガメ



原産地 北アメリカから南アメリカ
日本に持ち込まれたわけ

ペットとして輸入されたものが捨てられるなどして定着した。

日本での分布 千葉県印旛沼など。その他の地域でもたびたび発見されている。
影響 在来の魚類や両生類などさまざまな生きものを捕食する。かみつくことなどにより人に大けがをさせるおそれがある。



グリーンアノール



原産地 アメリカ合衆国南東部
日本に持ち込まれたわけ

グアムからの貨物に紛れて持ち込まれたか、ペットが捨てられて定着した。

日本での分布 小笠原の父島、母島、兄島と沖縄本島など
影響 昆虫類の捕食による影響。小笠原の固有種オガワラシジミは絶滅寸前。



オオヒキガエル



原産地 アメリカ合衆国南端から中央アメリカ全域、南アメリカ北部
日本に持ち込まれたわけ

害虫駆除のために導入されたのが最初。

日本での分布 小笠原諸島、大東諸島、八重山諸島。西表島でも確認記録がある。
影響 少種を含むさまざまな動物を捕食。西表島では、上位捕食者であるイリオモテヤマネコ等に影響が及ぶおそれ。



セアカゴケグモ



原産地 オーストラリア
日本に持ち込まれたわけ

貨物などに紛れて持ち込まれた
日本での分布 西日本を中心に分布。東北、関東でも確認されている。

影響 メスは毒を持つため、咬まれると激しい痛みやけいれんなどが起こることがある。



ブルーギル



原産地 北アメリカ東部
日本に持ち込まれたわけ

養殖魚として導入され、意図的に放流された。

日本での分布 全国
影響 幅広い水生生物を食べ、その生息を脅かす。漁業にも影響を与える。



オオクチバス



原産地 北アメリカ
日本に持ち込まれたわけ

養殖魚として導入。釣り魚としても人気があり、意図的に各地に放流され、拡大した。

日本での分布 全国
影響 捕食や、在来の魚との餌などをめぐる競合による影響。漁業にも影響を与える。



ウチダザリガニ



原産地 アメリカ北西部
日本に持ち込まれたわけ

食用として養殖のために持ち込まれた。

日本での分布 北海道、福島県など
影響 さまざまな小動物を捕食したり、水生植物に影響を与える。絶滅危惧種のニホンザリガニを捕食したり、すみかをめぐる競合などにより影響を与える。



アルゼンチンアリ



原産地 南アメリカ
日本に持ち込まれたわけ

物資などに付着して持ち込まれ、定着したと考えられる。

日本での分布 東京都、愛知県、岐阜県、京都府、大阪府、兵庫県、広島県、山口県など。
影響 競合により在来のアリの生息数を減少させる。人家に入り込んで食品にたかるなども。



セイヨウ オオマルハナバチ



原産地 ヨーロッパ
日本に持ち込まれたわけ

トマト等の農作物の授粉用に広く利用され、野外に定着した。

日本での分布 北海道
影響 在来のマルハナバチがすみかや餌をめぐる競合で減少する。植物の繁殖にも影響を及ぼすおそれ。



オオキンケイギク



原産地 北アメリカ
日本に持ち込まれたわけ

緑化の材料として利用され、野生化した。

日本での分布 全国
影響 河川敷などで在来植物の生育に影響を与える。



オオハンゴンソウ



原産地 北アメリカ
日本に持ち込まれたわけ

観賞用に持ち込まれ、野生化した。

日本での分布 北海道、長野県、福島県のほか全国
影響 濡原などで貴重な在来植物と競合し、駆逐するおそれがある。



私たちにできること

私たちの日常生活や社会と密接にかかわりを持っている外来種。一度拡がると対策をたてるのは大変なので予防が大切です。普段の生活からこの“外来種被害予防三原則”を心にとめて行動していきましょう。

外来種被害予防三原則

1

悪影響を及ぼすおそれのある外来種を
“入れない”

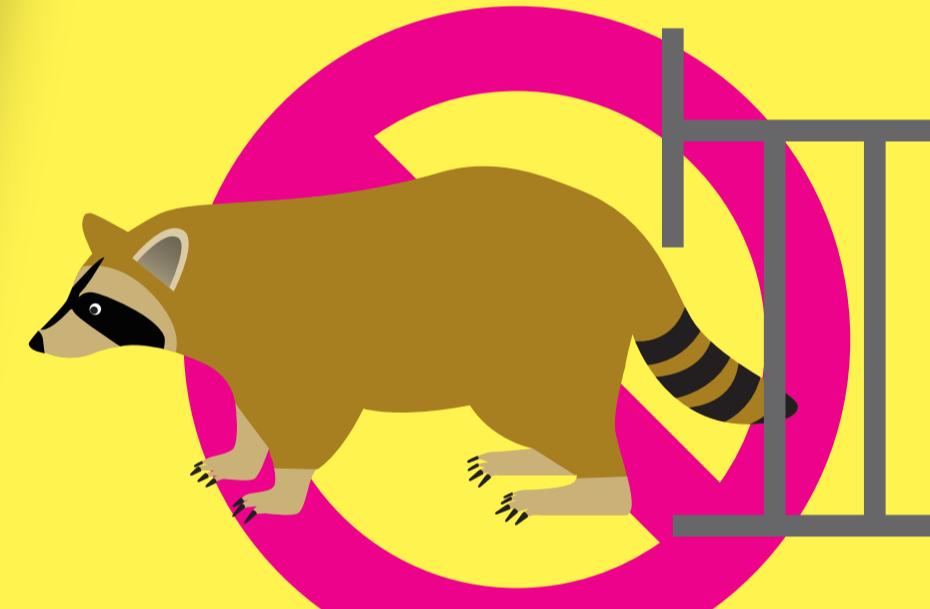
外来種による問題をおこさないために、一番大切なことです。入れなければ問題は起いません。



2

飼養している外来種を野外に
“捨てない”

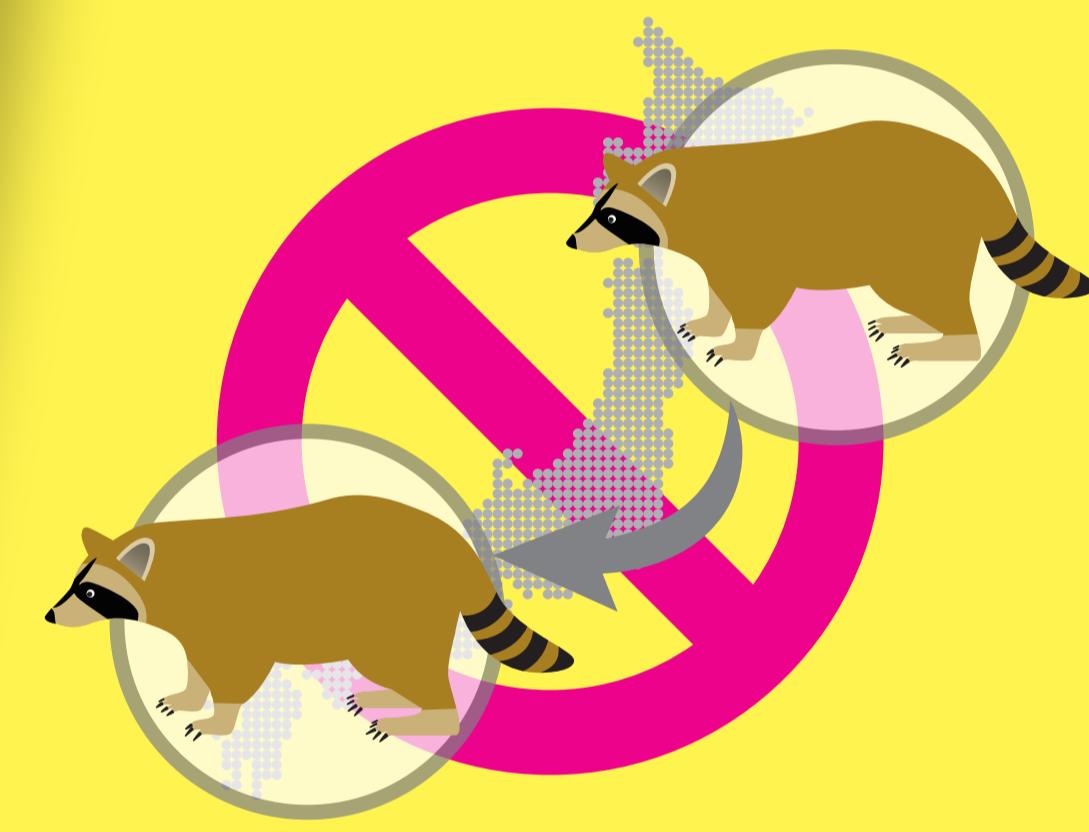
入れた外来種は、適切に管理(捨てない(逃がさない))しなければいけません。ペットとして飼っている生きものは、最後まで飼う責任があります。



3

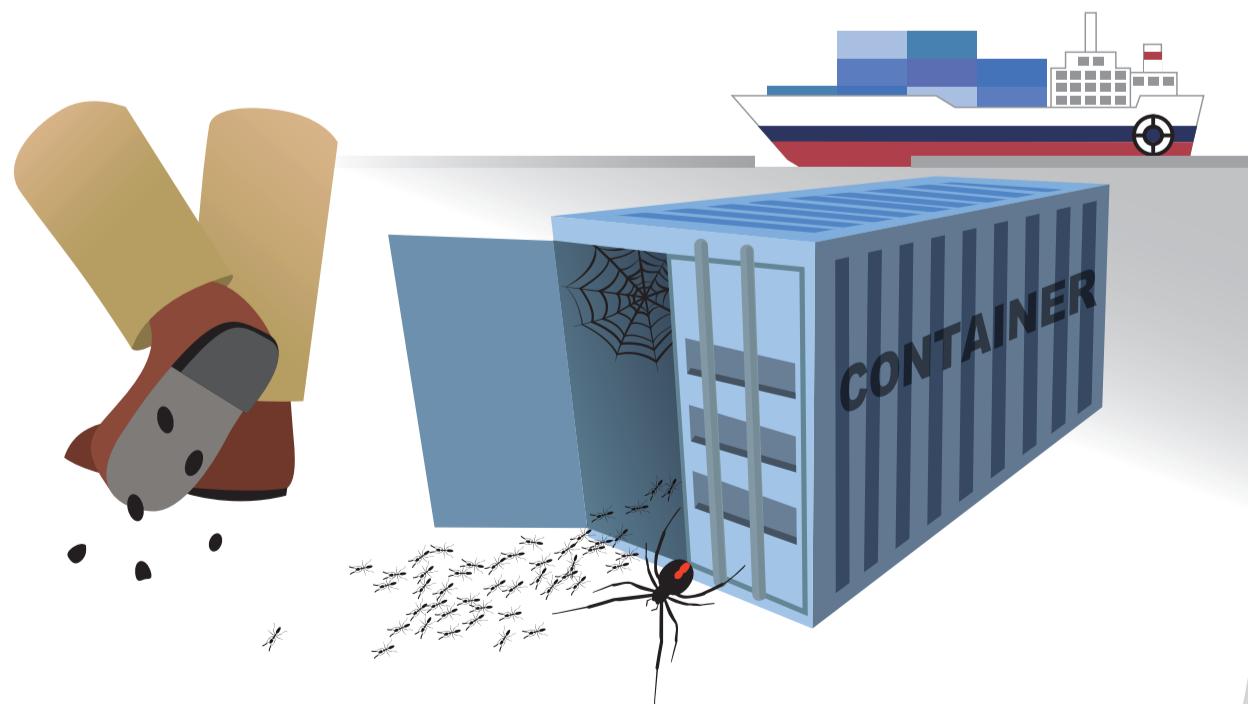
すでに野外にいる外来種を他地域に
“拡げない”

すでに野外に定着てしまっている外来種は、まだ定着していない地域に拡げないことが大事です。これ以上問題を拡げてはいけません。



さっそくはじめましょう！ まずはこんなことから

意図しない外来種の移動に注意！
私たちは普段、色々な場所に移動し、物も盛んに運んでいます。靴の裏についた植物の種や、貨物にまぎれこんだ昆虫などの小動物（アリ、クモ、トカゲなど）を運んでしまわないよう注意しましょう。



外来種の生息・生育情報はこちらへ
外来種を見つけたことはありませんか？分布情報は、防除を実施する上で非常に貴重です。写真に撮って登録してください。

いきものログ
～侵略的外来種全国分布調査～
<http://ikilog.biadic.go.jp/>

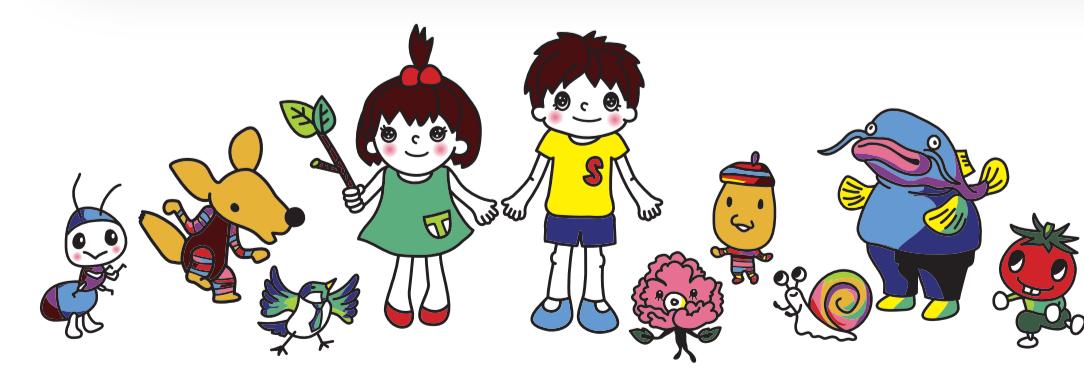


外来種対策活動への参加・協力！

全国各地で様々な取り組みが実施されています。ぜひ参加してみてください！



外来種の問題は、私たち人間の活動が原因。
私たち自身の暮らし方の問題点に気づかせてくれます。
後世にこの生態系を引き継ぐために、
“外来種問題に目を向けて”、日々の暮らしを見直してみませんか？



タヨちゃんサトくんとながまたち
生物多様性キャラクター
©環境省